

日本における電子マネー／電子決済の動向

藤原 寛文
Hirofumi FUJIWARA

要約：

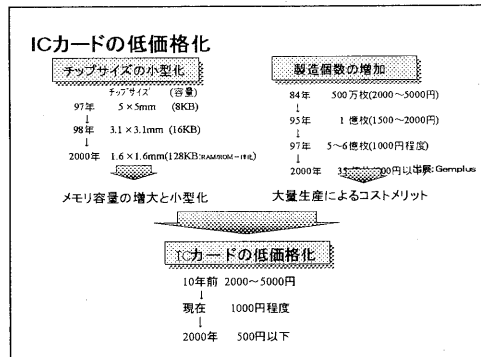
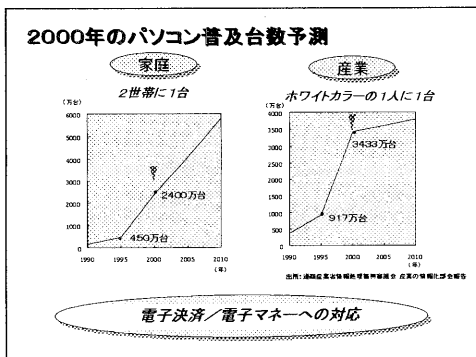
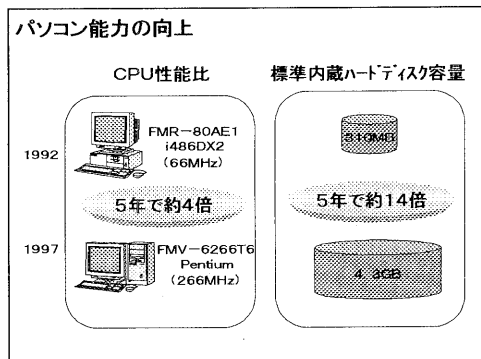
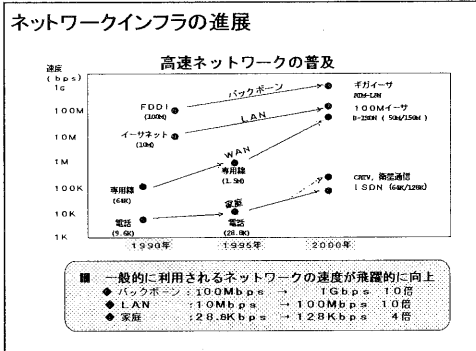
金融機関は「FREE」「FAIR」「GLOBAL」の3つをキーワードに、かつて経験したことのない金融大改革「ビッグバン」の途上にあります。インターネットなどのIT技術の進展と、このビッグバンに代表されるビジネスプロセスの変化の中で、従来の金融サービス、例えば利用媒体の変化や決済プロセスが大きく変化しています。

世界的な規模でのインターネットの整備や、これを利用した新ビジネスの出現が急速に進んでいます。日本におけるインターネットを利用したビジネスも同じスピードで急激に進展しています。特に、バーチャルモールでのショッピング決済や、バンキングサービスをインターネット上で行うインターネットバンキングがすでに実用の段階に入っており、他方、ICカードを利用した試みもすでに実用化の段階に入り、日本国内でも数多くの事例を引くことができます。

本日は、進展するIT技術やビジネス環境の変化をまとめながら、電子マネーと電子決済の現状と今後について、その動向をご紹介します。

1. IT技術の進展と普及

ビジネスの領域では、ネットワークインフラの整備やICカードの低価格化などが急速に進展しています。

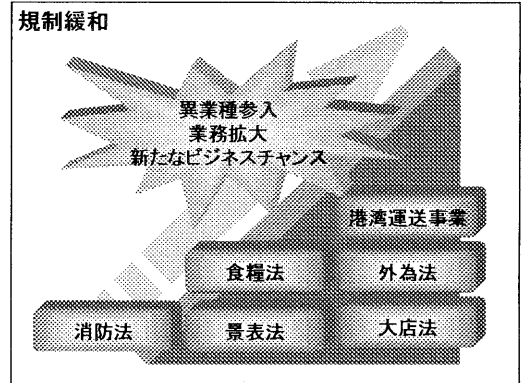


2. 今、なぜ電子マネーか

金融機関を始めとする産業界を取り巻く経営環境は、ビッグバンに代表される急激な変化の中にあります。例えば、外国為替法の改訂などの規制緩和や、海外企



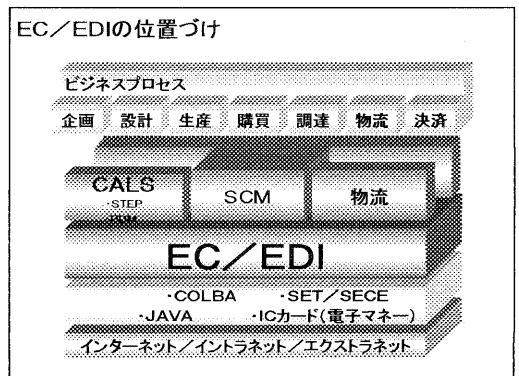
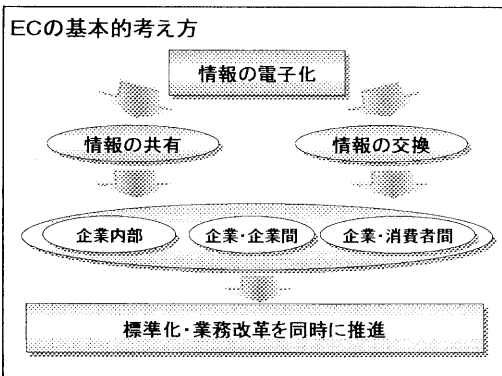
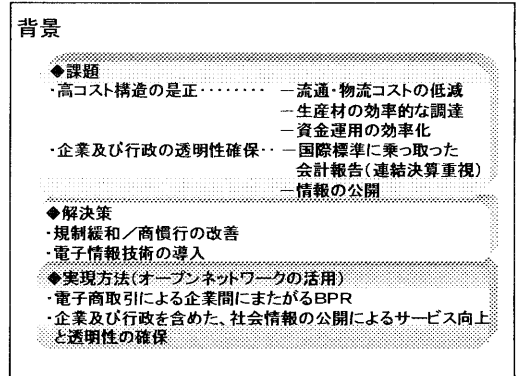
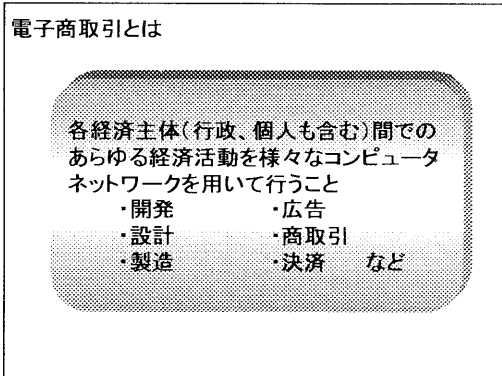
業との競争激化に伴って、ネットワーキングを前提とした新しいビジネススキームの創成が急務となっています。



3. ECの基本的な考え方

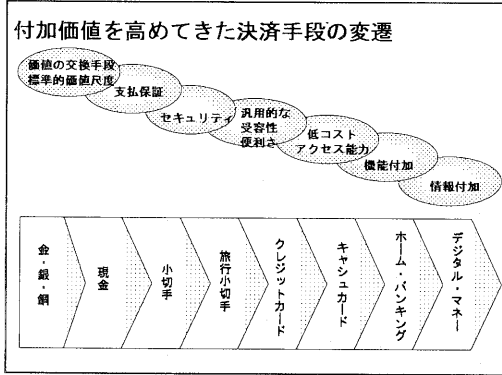
エレクトロニック・コマース（EC：電子商取引）が注目を集めています。その理由は、技術の進展と経営環境の変化に対応した新チャネルでの金融サービスが

必要と考えられているからです。企業—消費者間EC、企業間EC、EDIなどさまざまな局面で電子マネーや電子決済が必要となります。

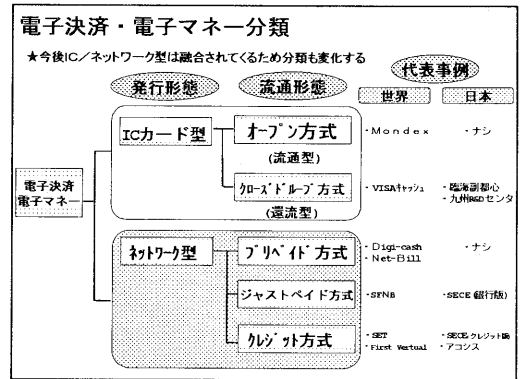
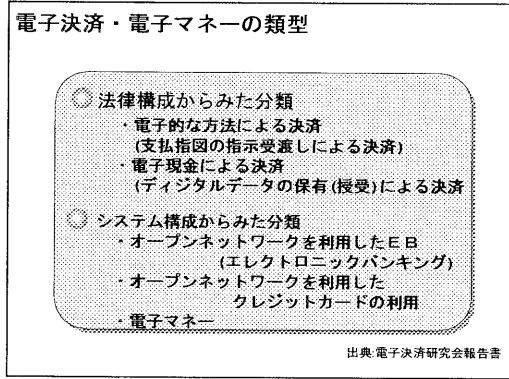
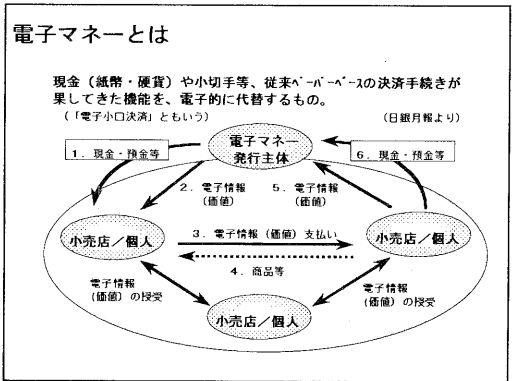


4. 電子マネー／電子決済の分類

決済の手段は、経済の歴史の中で変化してきました。付加価値を高めながら利用される媒体もそれに応じて変化してきました。電子マネーの定義、電子決済や電子マネーの法的分類／システム構成から見た類型につ



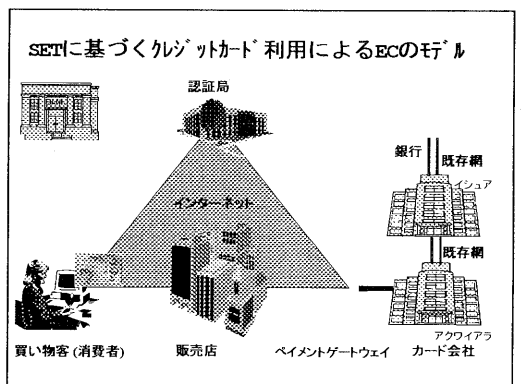
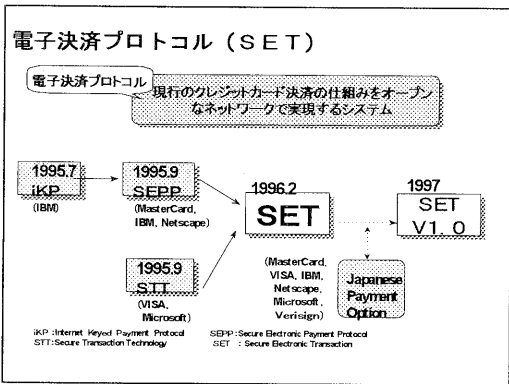
いては、電子マネー自身の出現により過渡期にあるというのが現状であると考えます。ここではそれを大きくICカード型とネットワーク型に分類してご紹介いたします。

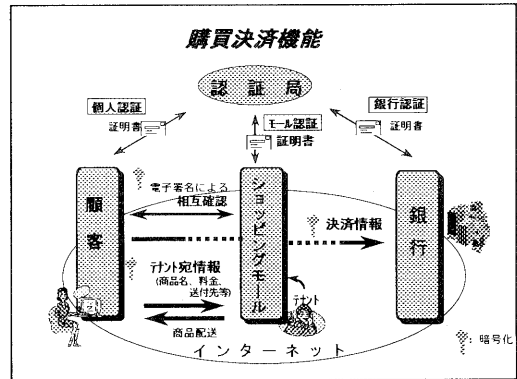
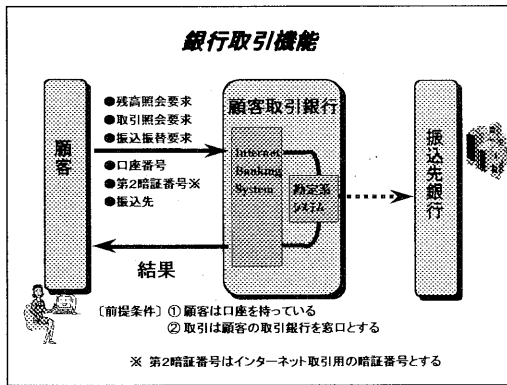
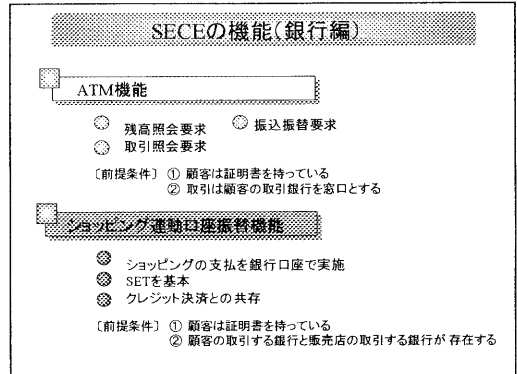
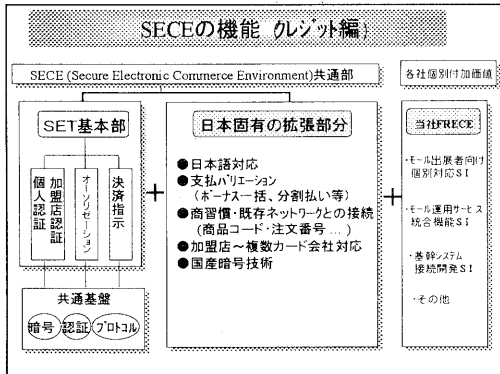


5. ネットワーク型電子マネー (SET/SECE)

ネットワーク型の電子マネーでは、海外有力クレジット会社が提唱したSETが有名です。日本では銀行

取引機能を付加したSECEを提唱し、既に幾つかの金融機関で実用化されています。ネットワーク型電子マネーでは、認証書が利用されています。

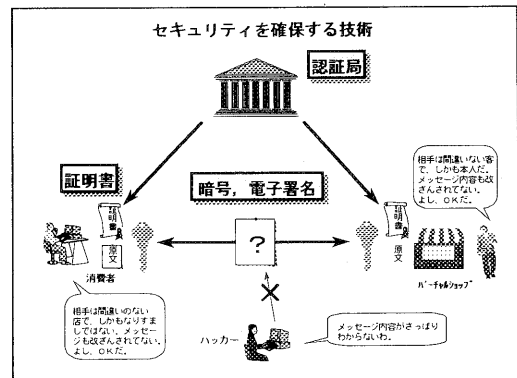
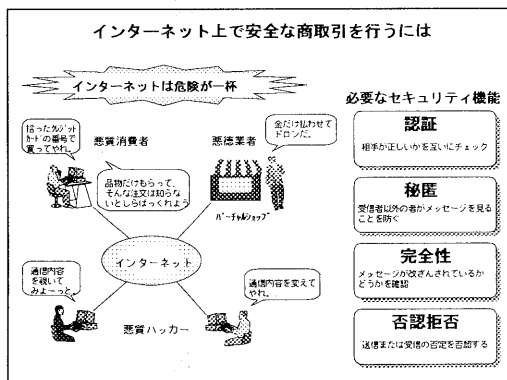




6. 暗号技術の利用

インターネット上では、本人確認などセキュリティに対する対策が求められています。暗号、電子署名の技術を活用して、認証・秘匿・完全性・否認拒否を実

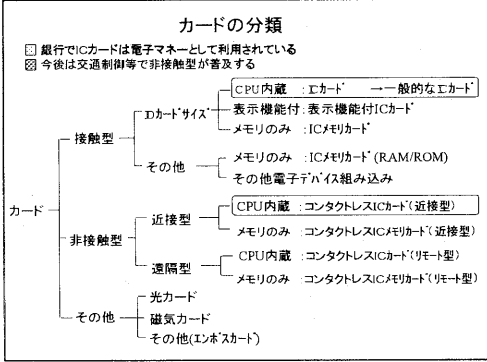
現しています。インターネットバンキングは、今後も利用局面を広げるものと予測されますが、その際のキーテクノロジーの一つが暗号技術です。



7. ICカード型電子マネー

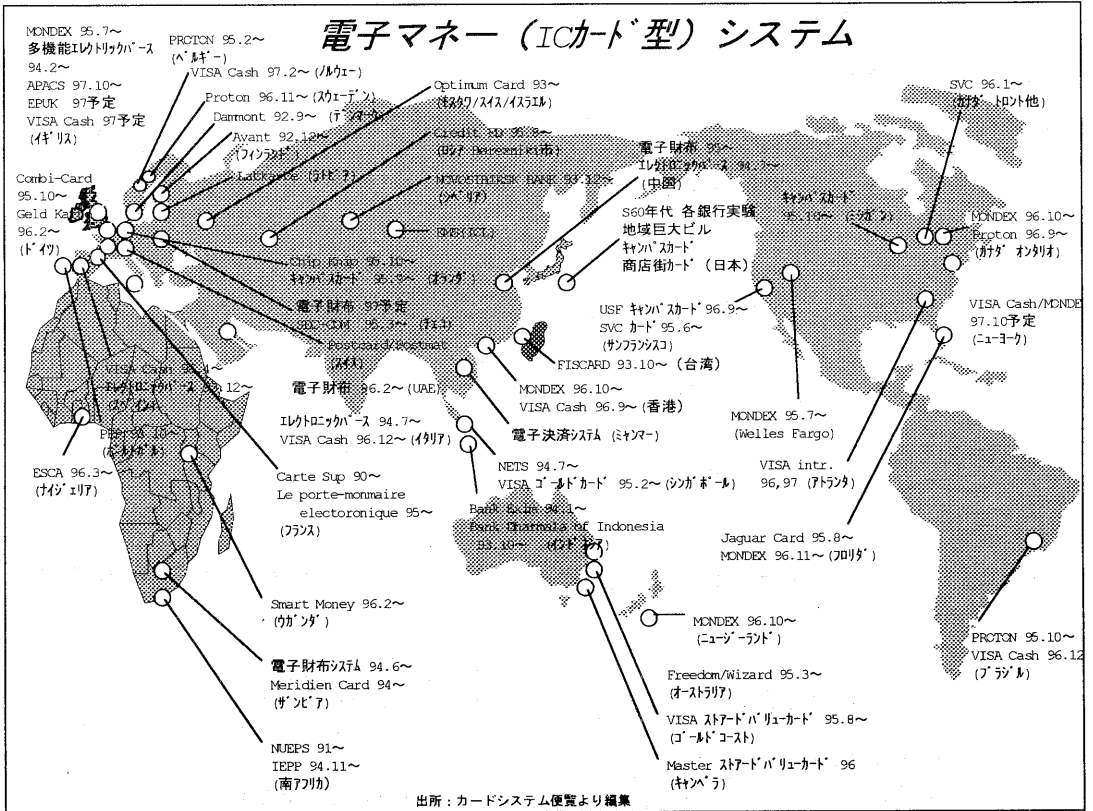
価値（金額）をICカードに格納してそれを流通させることが考えられています。カードの種類（技術的特性）で何種類かに分類されます。また、価値の流通形態によってMONDEXに代表されるオープンルー

プ方式と、一度限りの使用で価値の発行者に価値を戻すクローズループ方式があります。チップサイズの小形化や価格の低下にのって今後とも多くの実験が行われながら実用化が図られて行きます。



ICカード(電子マネー／電子通帳)の普及

	1997年	2000年	(参考)磁気カード
チップサイズ	5×5mm	1.6×1.6mm	6×85mm (磁気スライプ)
記憶容量	8,000文字	128,000文字	72文字
処理部	○	○	×
価格	1,000円程度	500円以下	300円程度

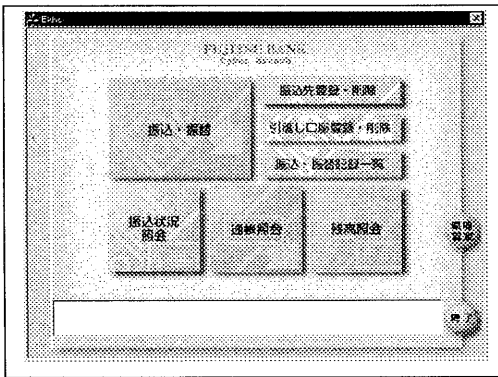


世界を俯瞰すると、欧米をはじめもちろんのこと、アジアやアフリカ、豪州など地域の別なく展開されてい

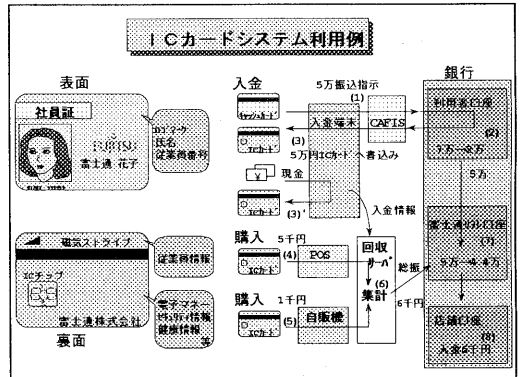
ます。日本でも同様に、多くの実用プロジェクトが進められています。

8. 電子マネーの利用例

インターネットを利用したバンキングサービスでは残高照会や入出金明細照会とともに振り込み依頼の受付を行うことができます。従来、営業店で取り扱っていたサービスを家庭で受けられるようになりました。



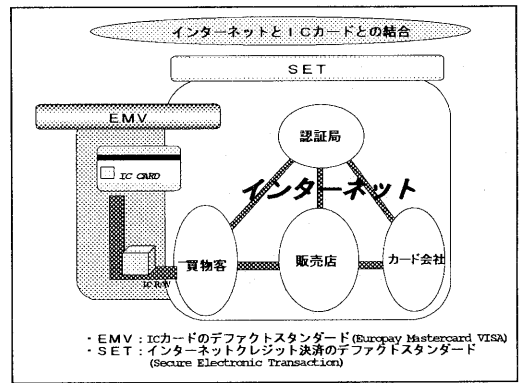
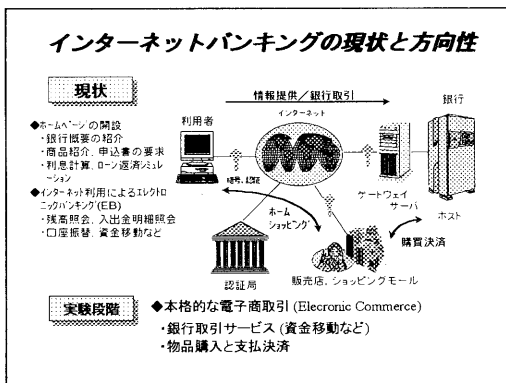
ICカードに価値を持たせて電子マネーとして利用する場合には、その他のサービス、例えば行政、医療などにも適用できるように、社会保険番号やカルテ情報も同時に格納することが考えられています。



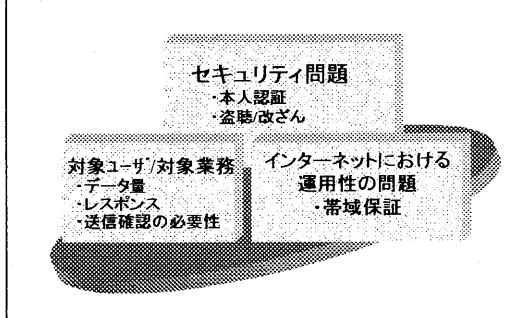
9. 今後の課題

電子マネー／電子決済の進展のスピードはさらに加速されるものと予測されます。暗号技術のさらなる進

歩も望まれますが、ビジネスにおいては企業間ECへの適用などを推進することが求められます。



インターネットにおける企業取引の今後の課題



電子決済・電子マネーに対する今後の展開と課題

